

(様式2)

2021年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

2022年 3月 30日

福岡女子大学学長 殿

申請者	所属名	共通教育機構	
	職名	准教授	
	氏名	和栗 百恵	印

事業名 (テーマ)	<input type="checkbox"/> 文理統合 <input type="checkbox"/> 国際性 <input checked="" type="checkbox"/> リーダーシップ <input type="checkbox"/> 伝統・歴史・感性 <input type="checkbox"/> その他 ※いずれかにチェック☑を入れてください。		
事業実施者及び 事業分担者		大学院生及び 学外協力者等	
<p>活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること)          ※この欄の記載は、大学ホームページ等にそのまま掲載する予定です。          (活動内容)          ①「グリーンイメー国際環境映像祭」受賞作品の対話的鑑賞(2回)、②社会課題に取り組むゲスト講師との交流の場づくり(1回)に加え、③ヘイトスピーチ・人種差別について映画「ハーフ」を活用した語り合い(1回)、④2021年秋の衆院選を前に、英国の婦人参政権運動を担ったサフラジェットについての映画の対話的鑑賞(1回)と投票行動についての対話および政党のマニフェスト読み合わせ・議論(1回)を学生が担うプロセスを支援した。コロナ禍の影響を受け、予定していたKATAOSA COFFEEでの開催は全6回中2回、学内で1回、残り3回はオンラインで実施した。</p> <p>①についてはファストファッション産業の裏で進むインドネシア・チタルム側の水質汚染を扱った「世界一汚染された川」、および、2019年グリーンイメー国際環境映像祭大賞受賞作品でありセネガル・カザマンを舞台とした食、移民、森と海の生態系、グローバル大資本等多様な視点から描き出される「黄金の魚、アフリカの魚」を視聴した後、対話を行った。          ②は体験学習プログラムとのコラボ企画として実施、罫猟師の娘として育ち北大で海洋汚染とその生態系への影響した多田溪女氏、くくり罫猟師・著述家である千松信也氏を迎え、主に「食」や「プロセスを担わない」今日の生活のあり方について話題提供と対話を行った。          ③はBlack Lives Matter運動を受け日本国内でのヘイトスピーチや差別に着目した企画で、映画「ハーフ」を題材にしつつ事前に学生がリサーチした概念や理論を紹介し、語り合いを行った。          ④は衆院選に向けた学生アクションとして開催、学生が専門知提供を教員に働きかけた結果、教員の対話的鑑賞およびマニフェスト読み合わせ・議論の回への連続参加が叶った。</p> <p>(成果)          主に3点の成果がある。2点は事業の目的である「場づくりを通じてのリーダーシップ開発」に関するもの、そして3点目は企画に対しての「協力」の発現という成果である。</p> <p><b>1. 学生が、「場づくり」に対してより内発的に、有機的に連携できるようになったこと</b>          2021年度の活動は新規メンバーが運営に携わるようになり、当初、2020年度活動のコンセプトを「引き継ぐ」に囚われていたものの、「自分たちで、自分たちが必要と考えること」の軸をつくりだすという視点の転換が図られ、コンセプトを発展させて取組にあたった。企画チーム内に「立場・肩書」(リーダー等)を設けずに活動を行う中で、意欲や場づくりのための作業量の多寡についても、まずは「自分自身」の内的な調整、そして「チームメンバー」間での調整が必要な状況が生まれた。葛藤や混乱、フラストレーションも経験しつつ、それでも「お互いが時間を割きたい場にする」という認識の共有を学生自身が図っていくプロセスから、そのプロセスやプロセスを経ての場づくり自体が「他人事」や「言われたからすること」ではなく「ジブンゴト」となり、内発的に、有機的に連携できるようになった。セルフ・リーダーシップや、チームにおけるリーダーシップの発揮を1年間を通じて積み重ねることができた。</p> <p><b>2. 学生が、場づくりのプロセス自体を「社会をつくる」に重ね認識できるようになったこと</b>          企画のコンセプトを実現するために関係者に協力を依頼し、実施報告を行うという一連のプロセスを失敗含みで担うことにより、何かしら実現するためには、目的(Why)を伴って手段(How)を検討する、協力する組織の構造や規則・手続きを把握・理解し活動を展開する、といった社会参画の基礎を疑似体験し、「身近な社会」への働きかけの経験を積み重ねられたこと。企画して実施して終わり、ではなく、プロセス自体を俯瞰することで、「動くことで見えてくる。動くことで何かが変わる/動いてもそう簡単には変わらない」などについて、「それらをふまえ自分はどうしたいか」にもとづいて行動する、を体得することができた。</p> <p><b>3. 大教室授業での対話を担う機会が生まれたこと</b>          上述③の企画に政治学担当の先生を迎えたいという学生のアイデアを受け容れてくださった先生が、鑑賞会そして読み合わせの会にも連続参加くださったことをきっかけに、先生が担当なさる授業のディスカッション部分の進行・ファシリテーションを企画メンバーが担う機会を開いてくださったこと。その折に社会課題を自分ごととする「政治」の捉え方についてメンバー自身の理解も深まり、また、普段「社会課題を語れる」活動について80名の履修生に伝えられたこと。          (ご参加、機会を下された石神圭子先生に感謝いたします。)</p> <p>*添付: 1年間の活動のふりかえりセッション(オンライン、学生自身が企画)時に使用した資料</p>			